第107回 島田大祭

大井神社の大祭は、1695年（元禄8）から神事祭式が定まり、初めて神輿の渡御が行われたとされています。当時からの文化が現在まで多く受け継がれ、衣装や祭小物など、島田でしか見ることのできない貴重なものばかりです。広報しまだでは3回連続で、各街がお薦めする大祭の見どころを紹介します。

三年に一度の里帰り

伝承によると、島田宿の氏神として信仰された大井神社は、元和年間に下島の地（御仮屋町にある現在の大井神社御旅所）にあったものが、一六八九（元禄二）年に現在の大井神社境内に遷座されたといいます。

そして、三年に一度、大井神社から御旅所へ里帰りするのが、島田大祭の発祥と伝えられています。

最初の里帰りが、一六九五（元禄八）年で、御神輿渡御が行われました。その時以来、鹿島踊が神の心を鎮め、大奴が警護のために行列をなし、供奉されました。

帯まつりのいわれ

島田宿へ嫁いできた花嫁は、氏神の大井神社へ晴れ着姿でお参りし、氏子になった報告と、安産の祈願をしたあと、晴れ着のまま町並みを披露して歩く風習がありました。

いつしか花嫁が見せ物同様ではかわいそうと、身代わりに女の命でもある「帯」を大名行列の大奴に託し、披露するようになりました。そこから島田大祭は別名「帯まつり」と呼ばれるようになりました。

現在でも、大井神社は大井川鎮護や安産の神様として、大井川流域の人々の信仰を集めています。

豪華絢爛な元禄絵巻図

「チョーン、チョーン　下にー、下にー」お先触れの拍子木とその声に目を向ければ、お長柄を先頭に大名行列が進んでいきます。

この行列の規模は、明治2年に、静岡藩支庁島田十万石支配所が設置されたことから、十万石の格式で執り行われるようになりました。

戦前は拍子木の音と一緒に先触れの「下にー、下にー」の声が聞こえれば、2階で見物することは許されず、屋台に上っていた芸人も一様に下へ降り立たなければならなかったと伝えられています。

「神輿渡御行列一覧図」（資料提供／島田市博物館）は、各街の紹介とともに、3回に分けて掲載していきます。

お先触

【お先触】（おさきぶれ）
「下にー下にー」と拍子木を打ち、大名行列を触れ知らせます。

【御先騎】（ごせんき）
先陣をきる、鉄砲隊を従えた侍大将です。

【大奴】（おおやっこ）
神輿渡御の警護にあたるもの

写真左から：御神輿、猿田彦、大鳥毛（明治44年）、御徒士（昭和4年）、御殿様、鹿島踊

10月12・13・14日開催

で、大名行列の花形です。

【大鳥毛】（おおとりげ）
上部は「矛（ほこ）」と呼ばれ、天空の邪気を払い世に平和をもたらすものといわれています。

【御殿様】（おとのさま）
御徒士（おとし）や御唄方（おうたがた）に先導され、御殿様は子どもが務めます。

【猿田彦】（さるたひこ）
天狗姿で五色の札をまき、金銀の札を拾うととても縁起がいいといわれています。

【御神輿】（おみこし）
重さ400kgの御神体の入った御神輿を、16人の担ぎ手が静かに担ぎます。

【鹿島踊】（かしまおどり）
往来を踊りながら、後ろ向きに進む所作が特徴。この舞は、神の心を慰めるための御神事舞です。

【屋台】（やたい）
各街（一～五街）ごと、地踊りと屋台の舞台で踊る上踊りがあります。東西一流芸人の名演により、通称「長唄祭り」といわれています。

鹿島踊

大祭を親子で楽しむ

島田市文化協会では、大祭についてもっと多くの人に知って・見てもらうため「第6回郷土芸能を観る会」を開催し、大祭にまつわるさまざまな事柄について、楽しく学びます。

入場料は無料。どなたでも参加できます。特に、親子での参加は大歓迎。子どもたちにとっても、夏休みの研究課題として最適な内容です。

【第六回 郷土芸能を観る会】
～知って・見よう・島田大祭～
とき／8月24日㈯
午後1時30分から
ところ／プラザおおるり ホール
主な内容
①屋台囃子・鹿島踊り・大奴、解説
②大祭Q＆A
解説／島田大祭保存振興会
鈴木副会長ほか

「これが分かれば、あなたも大祭博士！」
◉大名行列は、なぜ万石の格式？
◉法被が立派な訳は？
◉本陣入りとは？
◉三奇祭とは？
◉御仮屋なのに、なんで元宮？
◉神輿が練らない理由は？
◉各街の境界に引く白線って？
◉なぜ一流の長唄や三味線の家元が来るの？
◉大井神社と大祭の関係は？

文化を伝える担い手に

島田市文化協会
天野成子（あまのしげこ） 会長

島田大祭は、わたしたちが、島田の歴史を語り、文化事業を行っていく上でも、大変重要であり、多方面に影響のあるお祭りです。

郷土芸能を観る会に一人でも多くの方にご来場いただき、後世に島田の文化を伝えていく担い手になっていただけるとうれしく思います。

第107回　10月12・13・14日開催

島田大祭

～島田大祭の見どころを紹介します 其の一～

人々を結びつける島田大祭　全市挙げての祭りを目指して

地域を担う若者の手で継承を

島田大祭保存振興会
会長
清水（しみず） 克俊（かつとし）さん

豪華絢爛（ごうかけんらん）な「島田大祭」。その伝統の祭り文化の流れは、300余年、遠く元禄より受け継がれてまいりました。

前回の祭りでは、第七街のご理解とご協力により、お祭り広場にて全国各地から島田市を訪れた観光客の皆さんに「本陣入り（ほんじんいり）」の儀式をお見せすることができました。

夜の篝火（かがりび）が幻想的な効果を生み出す中、本陣入りは厳粛に行われ、大喝采の中に終演を迎えました。

駅前通りで行われた昨年の「本陣入り」

本年の大祭も、観光協会は観光面の充実を、私たち保存振興会はお客様に喜んでいただける祭りを工夫し、全力を傾注したいと思います。平成14年には「地域伝統芸能大賞」を受賞した島田大祭を、市の観光資源として全国発信するその一助となればと思います。

今後も島田大祭保存振興会は、より良い祭りづくりとその存続に努めてまいります。そのためには、若者の協力が不可欠です。生まれ育った島田市の大祭を、これからこの地域を担う若者の手で守っていただきたい。その意味でも、多くの市民の皆さんの大祭への参加と、全市挙げての祭りの継承を、お願い申し上げます。

大祭を支える仲間を募集します

島田大祭では、青年が運営の中心となり、それを祭典本部と中老本部が支えます。一方で近年、青年だけでなく中老も、参加者の減少が問題となっています。江戸時代、元禄の頃から受け継がれてきた長唄や舞踊、そして屋台。しかし、大祭の醍醐味は、何といっても「参加すること」です。

「今まで入りそびれてしまった人」「町外・市外に住んでいる人」「青年から入るのに抵抗がある人」など、大祭を支えてくれる気持ちがある人ならば、どなたでも歓迎します。大祭をとおして島田の文化に触れるとともに、参加して充実感を味わってみませんか。今年は、女性も初募集します。

【第一街・大井町中老】
㊐大井町中老会会長 増野稔
☎・FAX 37-8550

大祭の醍醐味は「参加」

大井川をさかのぼる大祭の歴史

大祭は大井神社の神事です。大井神社の歴史は、大井川をさかのぼります。その始まりは谷畠村（たにはた）（現在の川根本町）。村内の大沢地区にあった神様が、1276年（建治2）の大雨により島田まで流され、鎌倉時代以降に、下島地区（現在の御仮屋町）に祀（まつ）られたとされています。

その後も、度重なる水害などにより遷座されましたが、1689年（元禄2）頃に、現在の場所に落ち着きました。大井神社拝殿前には「元禄2年」の年号を刻んだ石標が、現在でも残っています。

大井神社の石標

太井神社　第一街　第二街　第三街　第四街　第五街　第六街　第七街　新組　元宮

太井神社

案内人：大井神社 宮司
片川 徹さん

3日間の祭りの前日の朝、11日の午前8時45分頃より「大祭青年衣装揃え清祓式」が行われます。祭りを運営する全青年が、法被姿で拝殿前に整然と整列する様は、緊張感に包まれて実に壮観です。この日は、各町内の中老から子どもたちまで、祭りに参加する全ての人たちがお祓いを受けに見え、それは夜の9時頃まで続きます。

12日は、午後3時から神職と総代でご夕祭。13日は、午前10時からご例祭が執り行われ、昼を過ぎた午後1時30分頃には鹿島踊の、3時30分ごろには大奴の振り込みがそれぞれ行われます。

14日の最終日は、日の出前から大奴がお宮に到着。御神体を御本殿から御神輿にお移しする際の警護の後、拝殿前より御旅所に向けて出発。続いて御神輿がお里帰りに出発。鹿島踊が続き、本通りでは五街から一街屋台が、その後を元禄絵巻さながらに進みます。

300年以上昔からの伝統を、厳格に今に伝えるこの「神賑わい」の行事。さらに300年先まで伝えられる事を、切に祈ります。

第一街

【本通一丁目、大井町】

案内人：第一街 祭典本部会計
堀江 良則さん

第一街は、本通一丁目と大井町の町内で構成され、島田大祭では、地踊りと屋台踊りを担当します。第一街屋台の芸人衆は、吉住小三郎（七代目）を家元とした長唄吉住会の芸人衆です。

屋台は2両の連結屋台です。前を前屋と呼び、屋台踊りの子どもが踊る舞台となります。後ろを後屋と呼び、芸人衆の楽屋となります。前屋と後屋をつなぐ連結器はなく、綱でつながれています。

1793年（寛政5）の神田明神祭礼絵巻には、踊りをするための「踊り屋台」と、底（床）が無く、中で歩きながらお囃子をするための「底抜け屋台」の記録があります。それらは二台一組で曳行され、江戸宝暦（1750年代）の頃に起こり、各地の祭礼で出されていました。そして、1812年（文化9）の土浦御祭礼之図には、床が有る底抜け屋台が見られます。このようなことから、第一街の前屋は「踊り屋台」で、後屋は床の有る「底抜け屋台」ということになります。歴史に彩られた第一街の屋台と踊りを、ぜひご覧ください。（参考：「大江戸の天下祭り」作美陽一著）

大祭青年衣装揃え清祓式

連結を外して2台になった屋台